

国本伊代著「民主主義の闘士、フランシスコ・マデロ」人物で読むメキシコの歴史；第7回、NHK ラジオテキスト、まいにちスペイン語 2010年10月号テキスト、NHK 出版、2012年9月18日刊を読む

「民主主義」の闘士 フランシスコ・マデロ

1. 「民主主義」を求めて闘った大富豪マデロ

- (1) ①フランシスコ・マデロは、アメリカと国境を接するメキシコ北部のコアウイラ州の大富豪マデロ家の長男として、1873年に生まれました。マデロ家は大地主であっただけでなく、鉱山や織物工場を所有する実業家一族で、ディアス時代の特権階級に属していました。
②父親はこの時期にイギリス大使に任命されていますから、独裁者ディアスの取り巻きの輪の中にいた一族であったと考えることができます。その息子がディアス独裁体制打倒の運動を主導することになるのですから、皮肉なものです。
- (2) ①しかし、マデロはディアス体制を全面的に否定したわけではありません。
②長期独裁体制そのものを悪とし、選挙による政治の民主化こそが 20 世紀初頭のメキシコが必要としている改革であると主張して、反ディアス運動を後述するような経緯で開始したのです。
③このようなマデロの思想と行動は、彼が受けた教育を考えると、当然の帰結でもありました。
- (3) ①マデロは 13 歳のときにアメリカに留学し、15 歳から 5 年間パリでビジネスの勉強をし、さらにアメリカに戻ってカリフォルニア大学(バークレイ校)農学部で 1 年足らず学び、20 歳になった 1893 年にメキシコに帰国しています。
②このように多感な青春時代を過ごしたアメリカとフランスにおける見聞と体験が、マデロの母国メキシコに対する思いに大きな影響を与えました。
③特にアメリカの政治と選挙制度を賞賛し、アメリカやフランスのような近代的で自由な社会をメキシコに出現させたいと考えたとしても、少しも不思議ではありません。
④ディアスの独裁体制下のメキシコには言論の自由も政治活動の自由もないことに、長い留學生活から帰国して気づいたマデロは、父親の事業の一部を継いで農園を経営し、雇用する農民たちと接触する中でまず政治を変えねばならないと考えました。
- (4) ①父親から綿花農園の管理を任されたマデロは、^{かんがい}灌漑施設を造り、農業の近代化と農民の生活改善に取り組みました。
②また、政治と社会の改革の必要性を認識し、地方の政界にも進出しました。20 世紀に入ると、ディアス大統領を批判する知識人たちが「自由クラブ」を各地で結成し、1857 年に制定された自由主義憲法の遵守と「民主主義」の再生を要求する声を上げ始めました。
③マデロもこの活動に賛同して資金援助をしています。
- (5) ① 1905 年に歴史に残る大規模な鉱山労働者のストライキが、また翌 06 年には織物工場の労働者のストライキが起こり、いずれもディアス政府軍によって弾圧され、多くの死傷者を出しました。
② 08 年、ディアス大統領はアメリカの雑誌記者のインタビューに応じて、10 年に予定されている次の大統領選挙に出馬しないと語ります。

- ③そこでマデロは、08年に『1910年の大統領継承—民主国民党』と題する分厚い本を著して、ディアス体制を批判し、1857年の憲法に明記された再選禁止を尊重するように求めて、民主国民党の設立を提案しました。
- ④これはやがて「再選反対党」と名称を変え、マデロはその大統領候補として全国を遊説して回り、「民主主義」を確立する必要があることを説きました。

2. マデロの思想と「メキシコ革命」

- (1)①一握りの特権階級が富と権力を独占し、中産階級はまだ少数でしかなく、圧倒的多数の国民が貧しく、読み書きもできない農民と労働者からなる社会で、マデロが主張した「民主主義」とは何だったのか、皆さんは疑問に思うことでしょう。
- ②マデロが固執したのは、「大統領の再選を禁じる 1857年の自由主義憲法に則った選挙の実現」でした。
- ③このようにして選ばれた為政者によって公正な政治が行われ、やがて貧しい農民や労働者にも富が分配される豊かな社会が出現するのだと、マデロは本気で考えていました。
- ④マデロが現実を知らない夢想家であるとされる^{ゆえん}所以です。
- (2)しかし、このマデロのユートピア的な考えは、1910年のメキシコでは非現実的でした。再選反対党をつくって自ら大統領選挙に立候補し、アメリカの選挙スタイルをまねて全国を遊説している間に、大農園に土地を奪われた農民たちが武装蜂起を開始し、急進的な社会改革を求めるグループが無政府主義運動を展開し、事態は急速に混沌状態へと変化していたのです。
- (3)①1910年は、メキシコが独立100周年の記念祭典を盛大に催した年です。
- ②そして華麗なる祭典の前に実施された大統領選挙に、引退を早々に語っていたディアスがそれを撤回して出馬し、対立候補のマデロを選挙の1か月前に「公権力に対する侮辱と政府転覆の嫌疑」で投獄しました。
- ③その間にディアスは7回目の連続再選を果たしています。選挙後に釈放されたマデロは、アメリカに亡命し、テキサス州からディアス打倒の蜂起日を11月20日と定めた「檄」^{げき}をメキシコ全土に飛ばしました。
- ④これに呼応したのが、1910年代を通じて武力抗争を展開することになる「メキシコ革命」に参加した各地のさまざまな武装勢力です。
- ⑤北部では、1857年憲法の遵守をスローガンにして革命勢力をまとめることになるコアウイラ州知事のカランサがマデロの檄に直ちに応えました。
- ⑥北西部のソノラ州知事も賛同しました。
- ⑦北部中央部のチワワ州では無頼漢のパンチョ・ビリャが機動力のある騎馬兵力を従えてマデロ陣営に馳せ参じ、中央南部では大農園に奪われた農地の奪還を目指してすでに蜂起していたサバタ農民軍がマデロの檄に呼応しました。
- ⑧他の地方でも反ディアス勢力が次々と武装蜂起しました。こうして約6か月続いた激戦の末に政府軍はマデロ反乱軍に敗れて、1911年5月、ディアスはフランスに亡命し、独裁体制に終止符が打たれました。自由な選挙が実施され、マデロが当選しました。
- (4)①マデロが最初に取り組んだ改革の政治は、政治犯の釈放、死刑制度の廃止、報道の自由の確立でした。さらに労働省の創設と労働時間の短縮など労働条件の改善にも取り組みました。
- ②しかし、当時もっとも緊急な課題であった農民が直面していた土地問題には手をつけませんでした。ディアス体制下で民衆を抑圧していた軍部や警察組織の改革にも手をつけていません。

- ③ こうしてマデロの改革の政治は、蜂起した農民軍を率いた多くの武装勢力を失望させ、サバタ農民軍は独自の農地改革案(アヤラ計画)を提示して、マデロと決別しました。
- ④ 反マデロの声が高まる中で、1913年2月に「悲劇の10日間」と呼ばれる、首都メキシコ市で起こった反マデロ勢力の蜂起と混乱の中で、マデロ大統領は暗殺されました。

3. 歴史的意味

- (1) ① 1910年に勃発した「メキシコ革命」は、現代メキシコの基礎を築いた重要な事件であり、一大変革期の始まりです。そしてその革命の導火線に火を付けたのがマデロでした。
 - ② 35年にわたってメキシコを支配した独裁者ディアスを追放することになる国民的運動を主導したのもマデロです。
 - ③ そのマデロが暗殺されて、メキシコは内戦状態に入り、ほぼ10年続いたこの革命動乱期に総人口1,500万(1910年)の約1割が命を失ったと推計されています。
- (2) ① マデロが固執した大統領の再選禁止と内戦で戦った農民の要求である農地改革および労働者保護規定を詳細に盛り込んだ1917年の革命憲法は、メキシコが新しい国民国家を建設するための基盤となりました。
 - ② メキシコ革命がロシア革命のような社会主義体制とスターリンのような独裁者を誕生させない道を進んだ根幹に、マデロが重要視した「独裁者の否定」の思想を見いだすことができます。
 - ③ 革命後のメキシコでは、独裁者となり得る大統領の再選は絶対禁止となり、軍部の政治介入が阻止され、独裁者が誕生しえない仕組みができています。
 - ④ 革命の理念を実現するために諸勢力を統合して設立された制度的革命党(PRI)が選挙を通じて政治を独占したのは事実ですが、現代メキシコは1920年以来クーデターを経験せず、独裁者も出現させず、メキシコ革命の成果としての社会改革と経営発展を成し遂げたのも事実です。
 - ⑤ これはラテンアメリカでは例外なのです。

P98 ~ 101

[コメント]

スペイン現代史の最重要な史実の1つ、フランシスコ・マデロによる独裁政治改革。知る人はよく熟知しているが、知らない人は全く知らないのが日本の歴史教育の最大の課題。スペイン語を学ぶ人も、そうでない人も、日本との関係の深いメキシコの歴史について大いに学びたい。国本先生のフランシスコ・マデロの御紹介はとてわかりやすく、ためになる。

— 2012年10月14日 林 明夫 記 —